

事業所職員向け 児童発達支援自己評価表

別紙3

公表：令和 7年 3月 11日

事業所名 児童発達支援センターぽぷら

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	19	1	保育を分散することで快適なスペース作りを心掛けている。	個で過ごせるスペースを確保できるよう調整していきます。
	②	職員の配置数は適切である	18	2	子どもや職員の動静に合わせて協力し合っている。	子どもに合わせて職員の適正な人数を配置していきます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	18	2	子どもたちに分かりやすいように、写真や絵カード等の視覚ツールを活用している。	環境整備、整理整頓、場所の構造化等を常に検討し、改善していきます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	20	0	落ち着いて活動に取り組めるように、活動時は子どもが気になるものは置かないように配慮している。 汚れはその都度、清掃するように心掛けている。	室内あそびでは、玩具が散乱しないよう保育室をコーナー分けしていきます。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	20	0	日頃より職員間でPDCAを含めた話をする機会が多い。また、段階に合わせた手立てを都度確認し合え、支援を試みることができている。 情報は早めに文章にまとめて情報共有できるようにする。	今後も、業務改善をするべき点等、職員間で意見交換していきます。
	⑥	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	20	0	保護者の意見を全職員で周知している。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	19	1		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	13	7		福祉サービス第三者評価を受審していません。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	20	0	毎月園内研修を実施しており、外部研修にも参加している。	研修の場以外でも、園内で気になる事案が起きた際は、早急に研修等を行っていきます。

適切な支援の提供

⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	20	0	保育者は言語聴覚士の先生からの評価を身近に受けており、よりはっきりとした観点や手立てをもって子どもに接することができる。また、保護者への支援にも深まりが持っている。 クラス間だけでなく、他職員の意見も取り入れている。	理学療法士や言語聴覚士の専門的な助言を下に、個別支援計画を作成していきます。
⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	20	0	写真カードやマカトンサイン等の活用。 生活動作が身に付くよう、手順表を使用。	子どもに合ったサインやカードを活用し、共通化していきます。
⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	20	0	個々にとって必要な支援を記載。	
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	20	0	定期的に個人の目標をクラス職員で確認。 子どもが楽しく意欲的に参加できる内容を考えている。	子どもが楽しい、やってみたいと思うような支援プログラムを作成していきます。
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	20	0		子どもの興味や発達に合わせた活動プログラムを作成していきます。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	19	1	季節や発達に応じて内容をかえている。 情緒や発達段階の面を考慮しコーナーあそびを加えた。 支援学級就学予定児等の児には3学期にクラスを超えての学習活動の設定も可能かと考える。 行事の見直し、改善を心がけている。	子どもの好きなものや興味のあるものを保護者に聞きながら、様々な意見を取り入れていきたいと思います。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	20	0	個別活動を取り入れながら、個々に丁寧に関わる時間を作っている。	子どもの発達や特性に合わせた活動を考えていきます。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	20	0	登園前にプログラムを共有するようにしている。 ホワイトボードを使い、配置確認。	

	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	16	4	各クラスごと実施。 パート職員は気になることがある際にはその都度共有。時間の関係で難しい日も多いが、翌日や時間のある時に気になったことを伝えたり教えてもらったりしている。	できるだけ隙間時間を活用しながら、子どもの様子を共有していきます。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	20	0	日々、個人のケースに記録。	記録のみならず、子どもの気になる点は職員間で共有していきます。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	20	0		
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	20	0	気になる点は、関係機関で共有している。	サービス担当者会議の後、子どもの様子を見に来ていただく機会を設けています。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	19	1	保健師、子ども家庭センター、障害福祉課の方々と連絡を取り合いながら連携して対応している。 相手機関が連携への意識がないように感じる時がある。	できるだけ、情報の共有をしながら子どもにとって必要な支援を皆で考えていきます。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	18	2		今以上に行っていきたいと思います。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	19	1	病院の受診日に一緒に同行し、Dr.からの助言を頂いている。 緊急時等、地域の病院に受診できるよう体制を整えている。	今以上に行っていきたいと思います。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	20	0	引き継ぎ資料や会議を実施。	移行後に情報依頼があった際には、丁寧な対応をしています。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	20	0	引き継ぎ書を作成し、学校に出向いて直接情報提供を行っている。	移行後も情報依頼があった際には丁寧な対応をしています。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	19	1		今後は、年に一回程度情報交換会を行っています。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	17	移行したい際は、個別交流を実施。	

連携	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	17	3		
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	20	0	お便り帳やハグノートの活用、送迎時の会話、電話でのやりとり等。	どの保護者にも、細やかな情報の共有や課題について話をしていきます。
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	16	4	面談などで相談とアドバイスをしている。	保育参観等を活用しながら、子どもの適切な関わり方について一緒に考えていきます。
保護者への説明責任等	③2	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	19	1		利用者負担額について変更があった際には、早めに保護者に連絡していきます。
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	20	0	作成時は内容の確認をしてもらい、同意を得ている。	
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	20	0	些細な変化に気づけるよう日頃から早めの対応を心がけている。 面談、連絡帳、対面で子どもの成長を伝えたり、保護者の悩みを聞く様にしている。	送迎時等、保護者と子どもの様子を伝えながら、情報共有を図っていきます。
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	20	0	保護者会主催のおしゃべり会を年3回程実施。	今年度は、ぽぶらの卒園児を含めた研修会を実施しました。
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	20	0	相談があった場合は、面談を実施。	
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	20	0		子どもが安心して過ごしている様子が保護者にも伝わるように、写真を用いながら発信していきたいと思えます。
	③8	個人情報の取り扱いに十分注意している	19	1	なるべく勤務時間でやるように気をつけている。 写真の取り扱いなど事前に親の要望を聞いている。	
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	20	0		
④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	12	8	地域住民との関わりは少ない。	地域のボランティアを積極的に受け入れています。	

非常時等の対応	④1	緊急対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	20	0	定期的を実施。	イレギュラーを想定した訓練を実施し、緊急時に対応できるよう心掛けています。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	20	0		
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	20	0	個別な資料を作成している。てんかんのある子には、事前に本人の細かな情報が書かれている紙を保護者に記入してもらっている。	入園後も、服薬の変更にはその都度確認し、把握していきます。
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	20	0	アレルギーがある子には、個別の対応をしている。	別室での食事を提供しながら、子どもが安全に食べられるよう環境を整えています。
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	19	1	ヒヤリハットは、その都度、全体に報告、周知を図っている。	
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	20	0	職員研修や法人内で虐待防止研修を行なっている。対応等で気になる時は、早めに会議で共有していく。	今後も、気になる対応についてはクラス間で確認、見直しをしていきます。
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	20	0	日々の記録、個別支援計画に記載。	子どもが安全に過ごせるよう安全面に考慮しつつ、不快とならないよう、子どもの様子を見守り、状況により検討していきます。

○この「児童発達支援自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

別紙4

公表：令和7年 3月 10日

事業所名 児童発達支援センター ぽぷら

保護者等数（児童数）34 回収数 33（兄弟児1組）割合100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	31	0	0	2	部屋も十分なスペースがあり外も広く遊具が豊富。 日当たり良好、園内における間取り全体が開放的であり、いつも清潔で思い切り遊べている。 活動ごとにおもちゃをしまったりして、子どもが集中できる環境作りをしてきている。	今後も、室内では保育室だけでなく遊戯室や廊下等のスペースを活用しながら環境に配慮していきます。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	28	2	0	3	きめ細かくみてもらえている。 子供に対しての接し方などアドバイスをもらえるので助かる。 言語聴覚士の先生が来てくれるのがありがたい。 子どものことだけでなく、親への配慮までして下さり、障害のある子を育てる親としてとてもありがたい。	今後も理学療法士の先生や言語聴覚士の先生に、子どもの発達においてのアドバイスをいただきながら、日々の保育の中にも取り入れていきます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	28	2	0	3	生活動線ができていて子どもにあった対応してくれている。 毎日のルーティンで本人も自分のロッカーやトイレなど把握して自ら動けるようなのでわかりやすくていい。	写真カード等の視覚ツールを活用しながら個々に分かりやすい環境を設定していきます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	30	1	0	2	他の子がお友達の水筒の飲み口に指を入れたり、それがそのままになっていて、いつもそうなのが？と気になってしまう。	感染対策等、衛生面にも配慮していきます。
	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	30	2	0	1		

適切な支援の提供

⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	28	0	0	5		
⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	27	1	0	5	いつも面談を行ってくれている。	
⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	28	1	0	4	最後の最後で遠足行けて本人大喜びでした、忘れられない思い出になったと思う。 いつも季節ごといろいろな活動をして子どもも楽しんでる。	今後も子どもたちが楽しみを持って登園できるように活動内容を工夫していきます。
⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	5	3	11	14	他の園との交流は知る限りない。 個人的には幼稚園の年齢の時は健常児との交流は本人も傷つくことが予想されるのであんまりしてほしくないと思う。	必要に応じて個別交流を行っていきます。
⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	29	2	1	1	最初の契約時における重要事項説明書だけで充分だと思う。正直なところ利用者負担説明は市役所窓口の仕事だと感じ、額の変更も紙面でのお知らせで満足。聞かれたら答えられる状態であれば良いのではないかと。	
⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	28	1	1	3		
⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	16	5	3	9		
⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況や課題について共通理解ができているか	29	4	0	0	保育者からみる子どもの特徴の解釈の仕方が親から見た解釈と相違がある時があった。	保護者の心情にも寄り添いながら子どもの成長と一緒に見守っていきたいと思います。

保護者

への説明等	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	30	3	0	0	先生方がいつも褒めてくれるので親として自己肯定感が上がる。専門的な助言をして頂いてるかは疑問に思うことがある。	保護者の相談や心配事にはその都度、受け付け対応を一緒に考えていきます。
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	26	4	1	2		
	⑯	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	25	2	1	5	以前息子の発語の事で言語聴覚士さんと話がしたいとお願いましたが、沢山話しかければいいよとの返事で終わってしまいました。	面談時は、必要または希望に応じて言語聴覚士の先生を含めたお話の場も設けていきたいと思えます。
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	29	1	0	3		
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	32	1	0	0	写真や動画を撮った等と先生より話を聞かすが、それを見れたりデータを貰えたらさらに嬉しい。	子どもたちの日々の様子が写真でも伝わるように、おたよりやハグノートを活用しながら発信していきます。
	⑲	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	31	0	0	2		
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	28	1	0	4		
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	28	1	1	3		
	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	30	3	0	0	吸い込まれるようにバスに乗っていく。病気で欠席が続いた際に、治ったらぼぶらに行けるよ、先生に会えるよと励ましている。	登園から子どもたちが安心や楽しみが持てるように園内の雰囲気作りも心がけていきます。体調不良で欠席した際にも電話にて家庭と子どもの様子を共有していきたいと思えます。

満足度							もう少し預かり時間が長 いと助かる。 土日遊び場がなくて大変 なので、土曜日だけでも 園庭開放してくれたら助 かる。 先生の助言が親として責 められているような負担 に感じる事がある。 いつも手厚い支援と温か い言葉に励まされ、3年 間楽しく通うことができ た。子供の成長を先生た ちと喜びながらぼぶらを 心の支えとして頑張るこ とができた。	家族の状況やニーズを把 握しながら園でできる方 法をしていきます。
	②3	事業所の支援に満足しているか	28	4	0	1		

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。